

第45回 **BACH** スクリーンコンサート

2025. 6月

今月のテーマ **ドボルザーク**

チェコ出身の作曲家で、ロマン派音楽を代表する人物の一人として、その作品は今日でも世界中で愛され続け、特に交響曲第9番《新世界より》は、彼の代表作であり、この曲からは新大陸（アメリカ）の広大な風景や先住民の音楽が感じられる曲です。

彼の生涯はボヘミアの民族音楽に根差しつつ、アメリカでの経験を通じて新たな音楽的領域を拓いたことで知られており、その作品には、民謡を取り入れた独特の旋律やリズムが特徴で、これらは世界の音楽に大きな影響を与え、ドヴォルザークの才能を示す作品として多くの楽曲があります。中でもスラヴ舞曲集はボヘミアの民族色豊かなリズムと美しい旋律が際立つ作品です。



曲 目

1、スラヴ舞曲第10番 OP 72-2 6:00

曲名はそれほど知られていなくても、聴いてみると聞き覚えのある曲だと思います。スラヴ舞曲は16曲ある第10番はバイオリンの高い音がかなりの頻度で出てきます。

2、我が母の教えたまえし歌 4:00

全7曲からなる歌曲集「ジプシーの歌」の第4曲です。母から私に私から子どもへと脈々と続く深い愛情が感じられます。

3、弦楽四重奏曲 12番 アメリカ 第1楽章 7:00

ドヴォルザークの室内楽作品の中でも最も親しまれている作品のひとつで、一般に『アメリカ』の愛称で親しまれている。第1楽章はヴィオラが第1主題を奏で、この主題は全曲中最も重要な主題です。

4、ユーモレスク 3:45

ピアノのための小品集8曲を作曲。中でも7曲目は、最も有名なピアノ曲の一つに数えられており、またクライスラーによるヴァイオリン用の編曲でも名高い。

5、チェロ協奏曲 第2楽章 12:40

楽章を通じて、アメリカから故郷を思う望郷の歌となっています。まずオーボエとファゴットに伴奏されたクラリネットが牧歌的な主題をのんびりと演奏します。これが、独奏チェロに引き継がれます。

6. バイオリンと弦楽のためのロマンス 11:43

バイオリン奏者が、その音の手ざわり、美しさ、切れ味、琴線が直接弦でこすられる感覚は、ヴァイオリンという楽器にしかもたせないと云わしめる曲です。

7. 交響曲第9番 新世界 45:00

3大交響曲の一つでドボルザークの代表作。

第1楽章

ゆったりとしたAdagioで静かに始まり、すぐに荒々しいAllegroが登場。低弦による沈み込むような序奏から、一気に力強い主題へと展開します。

第2楽章

冒頭は短い序奏に続いて、イングリッシュホルンがあの特徴的な家路（遠き山に日が落ちて）の旋律を奏でます。この主題は3回登場します、

第3楽章

生き生きとしたリズムと、舞踏的なモチーフが特徴的で、力強いビートや民族舞踊的な旋律が随所に感じられます。

第4楽章

1～3楽章の主要主題がこの楽章で再登場し、回想的にモチーフを織り交ぜながら、新しい展開としてまとめ上げ、終楽章で全体の統一感を高める、ドヴォルザークならではの職人技が光ります。